

8411 子供というのは面白い. . . .

子供というのは面白い.

わたしの倅がちいさいころ. 彼の理想は, 大きくなったらドロボウになることだった. 彼に対して絶対的な権力をふるうおかあさんが, つね日頃いちばん怖がるのがドロボウだった. だから, 彼にとってドロボウのオジチャンは想像もつかないくらいエライ人だったのである.

門田 勲『古い手帳』

[許容訳例]

Children are interesting.

As a small boy, my son's ideal was to be a thief when he grew up. His mother, who exercised absolute authority over him, was always most afraid of a thief. So, for him, the thief was a great man beyond all imagination.

[翻訳例]

Children are interesting.

When he was small, my son's greatest ambition was to be a thief when he grew up. A thief was the thing his mother, who exercised absolute authority over him, was always more afraid of than anything else. So for him a thief was a hero of unimaginable proportions.

■子供というのは面白い. (8411)

★「子供というのは. . .」は一般論を述べるので無冠詞複数です.

●文技巧 (子供というのは面白い)

「面白い」は funny を使う手もありますが, これを使うと「面白い, けれどもよくわからない」というニュアンスが出てきます. fascinating では少し強すぎるような感じがします. 結局, interesting が無難でしょう. ただし, 何かが足りないという感じがします. この文章は, ある意味では「エッセイライティング」の典型になっています. エッセイは, 「課題・導入文→具体的事例→結論」の順序で書くように指導されます. 「課題・導入文」は抽象的で (よくわからないようにして) 何となく関心を引く文を置くのが普通です. かつてイギリスの優れた小説家ヴァイジニア・ウルフは「エッセイの書き出しは, 一文で読者を引きつつけるような文でなければならない」というようなことを言いましたが, Children are interesting. の物足りなさも, 次の説明を読ませる重要な要素になるかもしれません. その意味では Children make you think. も面白いかも知れません.

■わたしの倅がちいさいころ. 彼の理想は, 大きくなったらドロボウになることだった. (8411)

★「わたしの倅がちいさいころ」は When he was small です. As a small boy, ... とするなら,

次の文の主語はその当人あるいは当人を含む言葉でなければなりません。たとえば、As a small boy, he…とか As a small boy, his hope…のように。

★「彼の理想」の「理想」は辞書には ideal しか出ていません。ここで使っても間違いとは言えませんし、意味もよくわかるのですが、ちょっと引っかけります。こういう場合よく使われるのは ambition (熱望) です。ですから my son's greatest ambition としたいです。「将来に対する抱負」ということですから my son's greatest desire と言ってもほとんど同じような意味です。ambition は「野心」とか「野望」と訳すと幾分邪な望みのように思われますが、たとえば、My greatest ambition is to have a small house in the country and spend my time growing flowers.のように使う言葉でもあるのです。

★「大きくなったら」は when he grew up です。

★「ドロボウになることだった」は was to be a thief でしょう。なお、文法的には was to become a thief でもいいのですが、習慣として、これは使いません。

■彼に対して絶対的な権力をふるうおかあさんが、つね日頃いちばん怖がるのがドロボウだった。(8411)

●「連体修飾節+特定体言」(彼に対して絶対的な権力をふるうおかあさん)

「彼に対して絶対的な権力をふるうおかあさん」は「連体修飾節(彼に対して絶対的な権力をふるう)+特定体言(おかあさん)」ですから「特定名詞(His mother)+コンマ関係詞節(, who exercised absolute authority over him)」です。なお、exercise の代わりに exert なら使えます。ただ、exercise の方が抽象的な意味合いが強いのにに対して exert は具体的な感じとなり、その場その場でどのような権力を振るったかということになるような感じになると思います。たとえば、He exercised his authority with great fairness.と言えは抽象的ですが、He exerted his authority and suppressed the rising.と言えは、具体的に実力行使のことを意味します。なお、carry out は使えません。

★「つね日頃」は always とか constantly でいいでしょう。

★「いちばん怖がる」は be most afraid of…でもいいですが、「ドロボウをいちばん怖がる」という原文のニュアンスがはっきり出るのは more afraid of… than anything else です。なお、「怖がる」に fear も使えますが、be afraid of の方が会話的です。たとえば、He [The child] is afraid of the dark.とはよく言いますが、He fears the dark.とはあまり言いません。意味としては同じなのですが、fear を使うと堅い文学的な表現になる感じがします。

★「ドロボウ」は a thief と単数にします。具体性がでますし、普通、「ドロボウ」は集団で襲ってくるわけではなく一人が多いからです。

●文構造(「文の流れ」と「隠れ連体修飾節」など)

翻訳は出来るだけ原文の順序を変えない方がいいのですが、ここでは「彼の理想は、大きくなったらドロボウになることだった。彼に対して絶対的な権力をふるうおかあさんが、つね日頃いちばん怖がるのがドロボウだった。」という関係、つまり、前の文章とのつながりがよくわかるようにするためと、もう一つは「いちばん怖がるのが・・・」が「いちば

ん怖がるものが・・・」という「隠れ連体修飾節」という理由で、a thief を先頭に出して、
A thief was the thing his mother, who..., was more afraid of than anything else. とすると正確な翻訳になります。

■だから、彼にとってドロボウのオジチャンは想像もつかないくらいエライ人だったのである。(8411)

★「だから」は so とか thus です。

★「彼にとって」は for him です。

★「ドロボウのオジチャン」の「オジチャン」という表現は非常に親しみのこもったかわいらしい言葉で、こういう表現は英語にはないと思います。どうしても訳しようがありません。

★「想像もつかないくらい」は(a hero) of unimaginable proportions がいいでしょう。この場合の proportions は「大きさ」のことです。たとえば、a rock of gigantic proportions と言えば「巨大な岩」のことです。他には beyond[surpassing] (all; one's) imagination (想像を絶する) も使っても間違いとは言えないかもしれませんが。このフレーズは、たとえば、He wandered what it would be like to go to the moon, but it was beyond his imagination. のように「想像しようとしたけれど、結局駄目だった」というような意味になることが多いと思いますが。

★「エライ人」も意外と難しいと思います。a hero を使えば、ここでいう小さな子供にとっての「ドロボウのオジチャン」＝「エライ人」という image が少しは出てくるような気がします。よく子供が学校などで、上級生に憧れたり尊敬の念を抱く気持ちを hero worship と言います。たとえば、It's a case of hero worship. というと、その憧憬の的のあとをどこにでもついていく、というような場合になります。なお、a hero の代わりに a great man なら使えると思います。